

久原房之助 くはらの ぶさけ 實業家、政治家。明治二年六月四日長門國生れ、  
昭和四十年一月二十九日歿（公元一九五五）。幼名房二郎。號霞峰。明  
治二十二年慶應義塾卒業。森村組を経て藤田組に入り、二十二年支那人  
と争ふ。四十四年久原鑛業所創立、爾後専業を擴張して財閥を形成も、  
のちい義兄鮎川義介の事業を委ねて政界入り。昭和二年衆議院議員、  
渡信相、十四年も憲政友會總裁。二十年台中、日ソ國交回復國民會議  
議長。

著書「久原一家言」（昭和八年五月）二十日佐々木第吉刊、富山房發、  
『時局石眼』（合著・都新聞社編、昭和十四年十一月一日秋豐園出版  
部）、『石上縦横談』（合著・淵田忠良編、昭和十五年八月十日大日  
本雄辯會講談社「キング文庫」）等。

文獻、菊池武徳著「久原渡村問題掘切代議士の演説」（昭和四年四月  
刊）、大隅京三著「津村（重吉）前議員失言問題と久原房之助問題」  
（内題「津村失言問題と久原房之助の何處へ」）昭和十一年六月一日  
大文字書院）、山崎一芳著「久原房之助」（昭和十四年十一月二十日  
東海出版社）等。

